

私の授業～うまくいったこと、いかなかったこと

所属	経済学部	氏名	高橋 青天
テーマ	入門計量経済学でのアクティブラーニングの実施		
<p>齋藤隆志准教授と私は、2015年度と2016年度に、経済学部3年次科目である「入門計量経済学」でアクティブラーニングを試みることにしました。現在、多くの民間企業でデータ分析の知識をもった人材が求められています。この点から考えても、「入門計量経済学」の授業は重要で、多くの経済学部学生に受講しデータ分析の手法をマスターしてほしい科目です。具体的な実施内容は、以下のようでした。理論的な部分の講義ビデオ30コマ分を明学のYouTubeへアップロードし、それを毎回、授業の前に予め各自学習してもらいます。こうして、教室での授業は、学生自らが持ち込んだパソコンを使い、データを使った実践的な分析方法の実習にもつばら集中することができます。学部予算から4人の外部TAを付けてもらい、実習の途中で質問があれば、いつでもTAに質問できるようにしました。これまでの入門計量経済学の授業は、いわゆる「座学」が中心で、一部の学生を除き、データ分析を実際に教室で行うことはできませんでした。また、「計量経済学」という科目がPC実習室を使って開講されていますが、実習と計量分析の理論を同時に学ばねばならず、学生にとって消化不良気味の授業となっています。このため、受講者が少ない状況です。これに比べ「入門計量経済学」の受講者は各年次で160人と多く、各80人規模の2クラスに分けて実施されました。各クラスには、2人のTAが振り分けられました。</p> <p>以上の授業経験から以下のことが問題点として分かってきました。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 学生の能力の違いから、どうしても進度が遅い学生に合わせた学習となってしまう、授業の効率性がとても落ちました。この改善には、語学クラスのように、30人ほどの能力別クラスをつくり、実施する必要があるかと思います。2) 受講者の80%がビデオを見ているにもかかわらず、ビデオの学習のみでは理解できない学生がその半数ほどいました。このため、TAなどによる補講を昼休みに行ったりしました。3) アクティブラーニング用の教室でないため、プロジェクターのスライドを十分に見ることができない学生が居ました。ぜひ、3方向にスクリーンが設置され、自由に移動できる机一体型の椅子が設置された教室を要望します。4) 我々2人は、かなりの時間を使い、ビデオやスライドを作成したりして何とか学生の意欲を引き出そうとしましたが、結局のところ、学習意欲のない学生の興味を引くことにはならなかったようです。ただ、意欲のある学生に対しては、とても良い講義になったと思います。このような学生のためにも、このような授業を続けるべきだと考えます。			